

請 願 ・ 陳 情 文 書 表

平成30年9月定例会

受 理 番 号	2	受理年月日	平成30年8月23日
請願・陳情者	渋川市行幸田2745番地8 渋川北群馬高齢期運動連絡会 会長 町田 孝比古		
紹 介 議 員	加 藤 幸 子		
付 託 委 員 会	総務市民常任委員会		
後期高齢者医療の窓口負担を2割に引き上げないことを 国に求める請願 【請願趣旨・理由】 2019年から後期高齢者医療の窓口負担を、現行の1割から2割にする議論が、経済財政諮問会議（内閣府）や財政制度等審議会（財務省）で進められ、社会保障審議会（厚生労働省）でも議論が開始されました。後期高齢者医療の窓口負担を2倍にする負担増の計画に対し、高齢者や医療関係団体等から危惧の声が相次いでいます。 戦前、戦後を体験してきた高齢者は日本経済の発展に寄与し、医療に安心してかかる制度に支えられ、世界一の長寿国をつくり上げてきました。しかし、この間、公的年金の受給額が毎年減少するなどの影響もあり、ひとり暮らしの高齢者の約半数は生活保護基準を下回り、また高齢者世帯の27%が貧困状態にあるといわれています。 高齢者は健康で長生きをするために、わずかな貯蓄をも取り崩しながら日々の生活を送っています。このような厳しい実態に追い打ちをかけることになりかねません。「後期高齢者医療の窓口負担の2倍化」は、高齢者の生活と健康に大きな影響を及ぼします。つきましては、以下の件について国に意見書を提出していただきたくお願いいたします。 記 1 後期高齢者医療の窓口負担を2割に引き上げないこと			